

令和2年度学校経営計画兼学校評価書（スクールマネジメントプラン）

京丹波町立瑞穂中学校

学校教育目標 「人権の尊重を基盤とし、心豊かで、たくましく生きる生徒を育成する。」

～キーワード～ 「健康・健全」 「自主・人権」 「明朗・明晰」

KE JI ME

○規則や約束を大切にしよう。 ○生活習慣や学習の習慣を向上させよう。

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点（短期経営目標）	評価	
			自己評価	学校関係者評価
1 京都府教育委員会「京都府教育振興プラン」並びに京丹波町教育委員会「京丹波町教育振興基本計画」に基づき、「学校・家庭・地域総がかりで育む子育てからひとづくりへ」の基本理念のもと、公教育として、地域住民の期待に応える特色ある教育内容の創造に努める。 2 生徒一人一人のよさを伸ばすとともに、望ましい生徒集団を育成し、豊かな感性を持つ人格の形成に努める。 3 学力の向上と進路希望の実現に繋がる指導の充実に努める。 4 特別支援教育の充実、個々の発達課題を明確にした支援計画の立案と実践力の育成に努める。誰もが安心して学べ、力を発揮できる学校づくりをめざす。 5 一致した指導体制のもとに、相互の信頼関係の中で積極的な教育実践を推進する。 6 教職員研修を充実し、教職員一人一人が自らの人間性を高めるとともに、専門知識や指導力量の向上を図る。 7 学校評価制度を生かすため、情報等の積極的提供を行うとともに、家庭や地域、保・小・高との連携を深め、信頼される学校づくりに努める	1 学習指導については、子ども理解と支援による取組の成果が見られた。全学年で行った学力診断テストを分析、教職員で協議し、学校全体の課題として共通理解を図り取り組めた。指導方法のさらなる改善が必要である。 2 認知能力と非認知能力を一体的に育む課題解決型学習の取組を始めたところであり、今後各教科との連携や、読解力の育成を視野に入れ、研究をすすめる。 2 家庭学習の習慣化に向け、家庭学習と授業との関連を図るとともに、手帳を活用したスケジュール管理の取組をすすめた。生徒会の取組と連携させ家庭学習の質的向上を図った。 3 全学年キャリア教育の推進を図り、3年生は進路実現を達成することができた。 4 理解と支援、基本的生活習慣の確立を基調とした生徒指導をすすめた。引き続き指導事項の確認や共有化に努め、また、保護者の理解と協力を得ながら丁寧な指導に努めた。 5 いじめや不登校の進行を防ぎ、早期発見、迅速な対応のため、アンケート及び日常の観察など実態把握につとめた。QU検査やいじめアンケート、また、担任の日常的な観察を通して、生徒の内面理解に努めることができた。今後も情報の共有が円滑にいくよう努める。 6 学校公開の参加者は、諸行事と組み合わせや広報を工夫した中で改善みられた。HPの更新回数がふえ、閲覧数も増えた。 7 安全点検や避難訓練の実施、交通・薬物・情報端末等、今日的課題への対応を図った。 8 特別支援教育については、支援を要する生徒の実態把握と系統的支援につとめた。 9 職員体制については、共通認識と一致した指導に向け努力してきたが課題を残している。引き続き、人材育成に留意しつつ、連携・共通認識による組織的な指導を展開する。	1 危機管理の徹底を図り、安心・安全な学校生活環境づくりと健康安全教育の充実に努める。		
		2 生徒の学力実態をふまえ、全教科で主体的な学びの実現、学ぶ主体としての生徒の育成、学力の向上を図る。		
		3 課題解決型学習を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育む。		
		4 道徳、人権教育の充実を通して、人権意識の高揚を図り、人を大切に、思いやる心を育てる。		
		5 ユニバーサルの視点による誰もが安心して学べ、力を発揮できる学校の実現をめざす。		
		6 生徒指導の機能（自己決定の場・自己の存在感・共感的人間関係）を生かした教育活動を推進する。		
		7 働き方改革に取り組み、限られた時間を有効に活用して教育活動を行う。		

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	評価	学校関係者評価		
教育課程 ・ 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の徹底 「基礎基本の定着と活用の力の育成」「授業と家庭学習の連結」「主体的学びの実現」をめざす指導改善 ユニバーサルの配慮と教科の魅力発揮の授業改善(京丹波町メソッドの具現) 	<p>全国調査、学力診断テストの結果分析をすすめ、共有する。 基礎基本の定着を図り活用力につなぐ指導をすすめる。 自主学習の方法を提起を通して、家庭学習の材料を提供し、家庭学習の定着を図る。 生徒の主体的な学びのための指導の工夫を進める。(京丹波町メソッド) 提出物の徹底と、放課後や長期休業等を活用し、学力補充の取組をする。</p>						
生徒指導 ・ 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導体制の確立と教職員一体となった指導 存在感、充実感がもてる生徒集団づくり 主体性、積極性の育成 いじめ、不登校等、問題事象の未然防止 教育相談機能の充実 	<p>課題や事象に対する認識の一致、指導の共通理解と共有化を図る。 QUTテストやいじめアンケートで学級での生活状況分析とその対策を進める。 いじめ防止対策組織を軸に、生徒理解、いじめの未然防止や早期発見、発生した際の迅速・適切な情報共有と組織的対応を行う。 学級活動、生徒会活動、部活動の活性化を図る。 授業規律の徹底など基本的な指導を重視する。 情報端末に係わるトラブルなど、今日的課題への対応をすすめる。 生徒指導、教育相談、特別支援教育、SC、関係機関との連携を強め、教育相談機能を充実させる。</p>						
人権教育 ・ 道徳 ・ 総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の高揚を図り、自他の人権を尊重する生徒の育成 豊かな体験やふれあいの中での心の教育の推進 道徳と教科・特活・総合等を結ぶ心を育む教育の展開 	<p>進んであいさつをする姿勢づくりをすすめる。 人権学習の充実と人権発表会の実施。 体験活動や、外部講師等との交流・ふれあいを大切にし、教育活動や諸行事を実施する。 道徳と、教科、特活、総合的な学習の時間、人権学習などを結び、心を育む教育活動を展開する。 教科道徳の授業を充実させ、適切な評価を行う。教育活動全体で道徳的実践意欲を高める指導を行う。</p>						
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 将来像や進路選択について自ら考える力の育成 希望進路の実現 	<p>職場体験を生かした職業意識の形成等、進路を主体的に切り拓くための指導の充実につとめる。 学習指導、補充学習等、進路保障につながる学力の向上を図る。 進路情報の提供と進路相談の取組を行う。</p>						
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 校内体制の充実 支援を要する生徒についての共通理解に基づく指導 ユニバーサルの視点に基づく教育諸活動の改善 	<p>校内委員会の確立と校内体制の充実を図る。 ユニバーサル視点による教育・学校づくりについての研修をすすめ指導改善に生かす。 校内委員会、研修会等での情報交流と支援策の検討をすすめ、要支援生徒への支援の充実をはかる。 コーディネーターを中心に関係機関との連携を図る。</p>						
保健管理 ・ 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 健康の維持増進への自己管理能力の育成 給食指導の充実と食育の推進 安全な生活をする判断力と行動力の育成 安全な学校生活環境の整備 	<p>面談や調査を活用し、実態を踏まえた保健指導を進める。 安全、衛生をふまえた給食の実施、及び食育の充実を図る。 食物アレルギー等の危機管理とその対応に努める。 救急救命講習等、専門家や外部講師の協力を得ての指導の充実をはかる。 PTAとの連携のもと登下校指導を実施する。 避難訓練や防犯訓練の計画的実施、定期的な安全点検の実施等、日常的な防災・予防活動を実施する。</p>						
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との協力体制の強化 地域の学校への関心を高める工夫 	<p>訪問、電話などを始めとし家庭との連携を密にする。 HPやCATV、新聞等を活用し、学校の様子を積極的に地域に提供する。 学校公開日の参加者を20名以上をめざす。 学校関係者評価委員会制度を学校運営に活かす。</p>						

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none">・保健管理や安全管理を一層充実させる。・認知能力と非認知能力を一体的に育む教育を進める。・読解力を分析し、その力を教科学習に役立てる。
---------------	---

評価規準 A…十分満足できる B…満足できる C…一部改善が必要 D…改善が必要